

第48回 研究論文集の刊行にあたって

教育論文審査委員会

1. 応募状況と審査結果

令和6年度、第48回の教育に関する論文の応募総数は75編で、内訳は、小学校37編、中学校が20編、義務教育学校が3編、高等学校が8編、中等教育学校が2編、幼稚園が3編、その他教育機関から2編となっております。約半数が小学校からの応募となっておりますが、近年では高校からの応募も増えてきており、さらに幼稚園や社会教育の分野からの応募もありました。また、応募された方の年齢でいいますと30代が最も多く30名、続いて40代が22名、50代以上が15名、20代が8名となっております。20代から30代が半数以上となっており、まさに教育実践を中心となって牽引している若い世代の方々が多く頼もしい限りです。前年度より多少少ない状況でしたが、優秀な論文が集まり選考は非常に困難を極めました。

受賞された先生方には、その素晴らしい研究成果と多大なる努力と熱意に敬意を表したいと思います。最終的には、最優秀賞1編、優秀賞3編、優良賞14編、奨励賞6編の計24編が入賞されました。論文全体を通して感じたことは、それぞれの学校等の実態を踏まえた仮説・検証型の論文が多く、日頃の教育活動や実践を理論的・研究的な視点から組み立てているものが大部分でした。

2. 入賞された論文に関して

最優秀賞と優秀賞の受賞者の方々のお名前、所属、研究テーマをご紹介します。(敬称略)
＜最優秀賞＞

○ 田中浩之（守谷市立愛宕中学校教諭）

自ら問題を見だし「課題を解決する力」の育成のための主体的・対話的で深い学びの実現を図る技術科指導

～第2学年「D情報の技術」（2）における複数のプログラミング言語学習から個別最適な学びと協働的な学びの往還を通して～

＜優秀賞＞（3編、順不同）

○ 小野威人（茨城県立並木中等教育学校副校長）

高等学校における広報活動の研究 ～少子化の中で志願者を増やす手立てを考える～

○ 土屋啓一（取手市立永山小学校教頭）

持続可能な社会をつくっていく態度を育成する単元開発

～JICA教師海外派遣研修の学びと外部人材の専門性を生かしたESDの実践から～

○ 塚原優喬（つくば市立並木中学校教諭）

数学科における主体的に学習に取り組む態度を育てる単元デザインの工夫

～“課題シート”と“振り返りカード”を活用した探究的な学習を通して～

これらの論文で評価された点は、構成がしっかりしており、論述、文献、資料等の形式的な面も的確です。また、実践の積み重ねがある上、その様子も詳細に示され、アンケート調査に

より生徒の実態や変容が把握されるなど、データ・根拠に基づく論述がきちんとなされている点あげられます。また本研究の実践に加え、日頃から児童・生徒との関わりを大切にし、その経験を学習に活かされている点も素晴らしいと感じました。

次に、優良賞の14編についてです。全てをご紹介することは難しいのですが、共通する優れた点や、印象に残った言葉に焦点を当てて述べさせていただきます。

例えば、学校経営に関するテーマでは、学校全体のウェルビーイング向上を図るための経営の在り方について論じた研究が見られました。近年、「ウェルビーイング」という言葉は、今後の教育の方向性を示す重要なキーワードとして注目されています。教育におけるウェルビーイングは、「子どもたち一人ひとりと社会全体が、現在から将来にわたって幸せで満ち足りた状態となること」を意味します。この研究では、教職員を含めた具体的な取組が詳細に述べられており、非常に理解しやすい内容となっています。

その他、以下のような特徴的な実践や工夫が見られました。

- ・地域との連携・コミュニティスクールや地域学校協働活動から教育活動を組み立てる提案
- ・ICT活用に教職員のスキルアップを組み込み、授業での活用を段階的に進める実践
- ・子供が主体的に取り組むための当事者意識の持たせ方の工夫や、自作の読み物資料・ワークシートの工夫
- ・児童の疑問を大切にしたプロセスを重視した研究
- ・検証方法の工夫（抽出児を設定し、児童の変容を追跡するなど）
- ・評価分析の詳細な記述と、わかりやすい研究構成

いずれも研究計画がしっかりしており、継続的な積み重ねが見られ、添付資料もわかりやすくまとめられています。優秀賞でもよいのではといった意見もあったほどです。

奨励賞については、優良賞や優秀賞とは、審査の基準が違ってきます。また、毎年必ず授与しなければならないものでもありません。研究内容が、今後教育現場の教育研究活動への振興・発展となることが期待されるものや、あるいは幼児・児童・生徒の教育に重要な意義を有している分野のものという位置づけとなっています。今後の波及効果や継続した実践などが期待されるものとなっています。

3 最後に

審査にあたっては、以下の視点から行いました。

- ・研究内容が創意に富み、その主張が斬新であり、論旨が明確で、実践資料が十分であるかどうか。具体的には、研究の目標と研究結果の検証との間にずれがないか、有効であると結論づけるに足るデータがどこから導かれているかを確認しました。
- ・添付資料が、研究的に見て価値があるかどうか。
- ・研究主題が、茨城県の教育目標実現のために「明日の教育を考える」という立場から、学校等の実態を踏まえ、研究的かつ実践的であるかどうか。

などを基準として評価いたしました。受賞された論文は、これらの基準を高いレベルで満たしており、今後の教育発展に大きく貢献するものと確信しております。受賞者の皆様には、改めて心からの祝意を表すとともに、皆さんの研究が子どもたちの今後の学びと成長につながることを心から期待しております。